AtermIT21L　PIAFS(ピアフ)2.1 版対応について

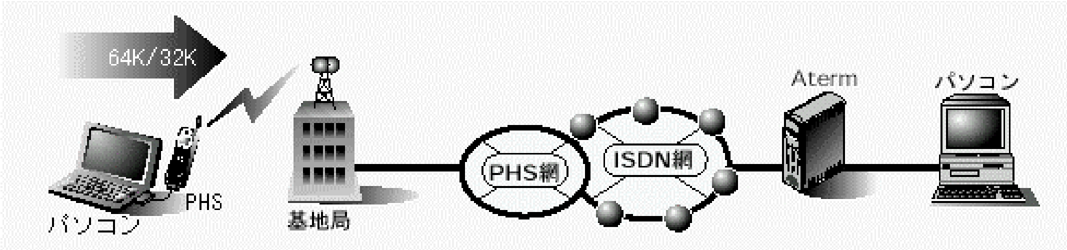
2000 年 10 月

【ソフト名】　AtermIT21L用　ファームウェア　Ver.1.10 以降
【著作権者】　日本電気株式会社
【対応機種】　AtermIT21L(PW) AtermIT21L(MB) AtermIT21L(CR)
【対象ユーザ】　上記の対応機種をご使用のお客様
【転載条件】　転載禁止

もくじ

1.　PIAFS（ピアフ）2．1版対応

Aterm は、PIAFS 2.1 版に対応しました。PHS から INS ネット 64 を介して Aterm に接続し、Aterm に接続したパソコンとのデータ通信を行う際に、相手からの通信速度変更（64K←→32K）に応じることができます。
ただし、この場合は自分側の通信速度変更（64K←→32K）は行えません。



《ご参考》PIAFS：　PHS Internet Access Forum Standard の略。高品質なデータ通信方式のために標準化された規格です。

■ Aterm から PHS へ発信する ■

Aterm から PHS へ発信するには、以下のいずれかの方法を使います。

● 発信時に通信モードを指定する（PIAFS2.1 版の場合のみ）

接続時、相手先 PHS の電話番号の末尾に「PP」を付けます。ATD コマンドを使う場合も、ダイヤルアップネットワークで接続する場合も同様です。

＜ダイヤルアップで接続する場合＞

1. ダイヤルアップ接続のモデムの種類を選択する。
   Windows の場合は、同期 64Kbps 用（AtermIT SYNC115）を選択します。Macintosh の場合は、PIAFS64K 用（NEC AtermIT 64KPIAFS）を選択します。
2. 電話番号の末尾に **PP** を付けて発信する。

ダイヤルアップネットワークの場合



＜**ATD** コマンドで接続する場合＞

1. ハイパーターミナルを起動する。
2. 例に従って **ATD** コマンドを入力する。
   （例）　ATD0311112222PP

● AT$N コマンドで PIAFS モードに切り替える

1. 発信の前に **AT$N** コマンドを使い、**PIAFS** モードに切り替える。

PIAFS 通信モード	AT コマンド
PIAFS2.0 32K モードの場合	AT$N1=2$N15=0
PIAFS2.0 64K モードの場合	AT$N1=2$N15=1
PIAFS2.1 64K/32K モードの場合	AT$N1=2$N15=2

2. **ATD** コマンドで発信する。（末尾の **PF/PD/PP** は、不要です）
   （例）　ATD0311112222

《ご参考》・Windows98/95 をお使いの場合、ダイヤルアップネットワークのバージョンによっては、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックを外す必要があります。
・PIAFS 通信を行うときは、「発信者番号通知」を行うように設定してください。

■ PHS から着信する ■

PIAFS モードでの着信があると、自動的に判別して PIAFS 通信を行います。